

もくじ

CHAPTER 1 訳：中島航輝／脇田雅文

前歯部および臼歯部シングル・トゥースインプラントの歴史と根拠

抜歯後即時埋入と待時埋入の比較
臨床例
抜歯即時インプラント埋入の課題
抜歯窩の分類
抜歯窩マネジメントのための診断補助：X線撮影と臨床検査

CHAPTER 2 訳：落合久彦／毛利国安／森本太一朗

抜歯窩 Type 1 のマネジメント

フラップを挙上しての抜歯とフラップレスによる抜歯の比較：エビデンスに基づいた根拠
適切な器具を使用した抜歯テクニック
前歯部抜歯窩における三次元的なインプラント埋入位置
軟組織の水平的な厚み
ギャップ幅と創傷治癒
骨の厚みと歯槽堤の寸法変化
インプラント周囲軟組織の厚み
抜歯窩の Dual-Zone マネジメント
骨移植材料
Dual-Zone 法で使用する骨移植材料
補綴装置によるソケットシーリング
iShell テクニック
ヒーリングアパットメントの取り外しにともなう出血
セメント固定式、スクリュー固定式プロビジョナルレストレーションおよび最終補綴装置
アパットメントの選択・材料および色において考慮すべき事項
根尖病変、瘻孔、アンキローシスをともなう歯の管理 74
抜歯後即時埋入におけるインプラントデザイン

CHAPTER 3 訳：長尾龍典／森本太一朗

抜歯窩 Type 2 のマネジメント

抜歯窩 Type 2 への即時インプラント埋入
臨床例
抜歯待時インプラント埋入
ソケットブリザベーション用メンブレン
アイスクリームコンテクニック
抜歯待時インプラント埋入と即時プロビジョナルレストレーション修復
治癒した顎堤への抜歯待時インプラント埋入のためのフラップデザイン
ハンチテクニック
フラップテクニック
プロビジョナルレストレーションによる軟組織形態の形成

監訳



翻訳 (五十音順)



CHAPTER 4 訳：長尾龍典／森本太一朗

抜歯窩 Type 3 のマネジメント

3mm の唇側側中央部の歯肉退縮の治療
唇側骨の欠損をともなう 1mm の唇側側中央部の歯肉退縮の治療

CHAPTER 5 訳：今井 遊／森本太一朗

臼歯部の臨床的マネジメント

複根歯の抜歯
大臼歯部抜歯窩へのインプラント埋入
Type A
Type B
Type C
大臼歯部への抜歯即時インプラント埋入の代替法
臨床例
大臼歯部への待時埋入プロトコール

CHAPTER 6 訳：藤田 裕／石井佑典／五十嵐 一

インプラント治療における重要事項

セメント固定法
印象採得テクニック
併発症
過剰な咬合荷重
テンポラリーシリンダーにおけるプロビジョナルレストレーションの破損や脱離

CHAPTER 7 訳：安倍稔隆／石井宏明／鈴木淑乃／鈴木仙一

臨床症例集

Type 1
症例 1：上顎中切歯の水平的破折
症例 2：大きな内部吸収病変
症例 3：上顎中切歯の内部吸収病変
症例 4：上顎中切歯の垂直的歯冠破折
症例 5：高いスマイルライン
症例 6：高いスマイルラインと慢性瘻孔
Type 2
症例 7：唇側プレートの喪失
症例 8：根尖病変および壊死をともなう歯の破折
Type 3
症例 9：上顎中切歯唇側骨の欠損
臼歯部
症例 10：上顎第一大臼歯の外部吸収
症例 11：下顎第一大臼歯の垂直的歯根破折

翻訳統括



巨匠・Dennis Tarnow 氏と Stephen Chu 氏による 単独歯インプラントの決定版！

シングル・トゥース インプラント

前歯部および臼歯部抜歯窩に対する低侵襲アプローチ



[著] Dennis P. Tarnow
Stephen J. Chu

[監訳] 鈴木仙一
森本太一朗
脇田雅文

[翻訳統括] 松成淳一
五十嵐 一
新井聖範

[翻訳] 安倍稔隆／石井宏明／石井佑典／
今井 遊／落合久彦／鈴木淑乃／
長尾龍典／中島航輝／藤田 裕／
毛利国安



Dr. Dennis Tarnow Dr. Stephen Chu

世界のインプラントの巨匠・Tarnow 氏と Chu 氏の 渾身の 1 冊がついに日本語で読める！

日常臨床で遭遇することの多い単独歯の抜歯即時インプラント埋入において、いかに審美的で長期的な成功を得るかにフォーカス。単独歯インプラント埋入の際、天然組織の形状を維持するために、骨縁下の骨造成を確実にし、骨縁上の歯肉の部分のマネジメントも重要であるという“Dual-Zone コンセプト”を強調して提唱している。

注文書

シングル・トゥースインプラント 前歯部および臼歯部抜歯窩に対する低侵襲アプローチ

モリタ商品コード:208050982

冊注文します。

●お名前	●貴院名	●ご指定歯科商店
●ご住所 (〒)		
●TEL	●FAX	
		支店・営業所

※ご記入いただいた個人情報は、弊社の新刊案内、講演会等の案内に利用させていただきます。
※ご指定歯科商店がない場合は送料をいただき、代金引換宅配便でお送り致します。

2024-11

QUINTESSENCE PUBLISHING 日本

●サイズ:A4判変型 ●240ページ ●定価24,200円(本体22,000円+税10%)

クインテッセンス出版株式会社

〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目2番6号 クイントハウスビル

TEL. 03-5842-2272 (営業) FAX. 03-5800-7592 https://www.quint-j.co.jp e-mail mb@quint-j.co.jp



Dual-Zoneとは？

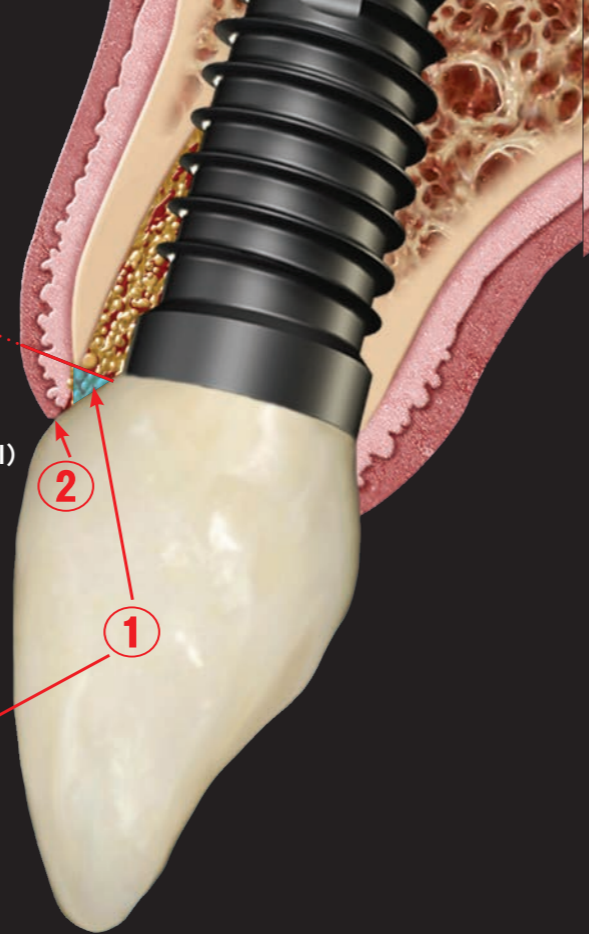
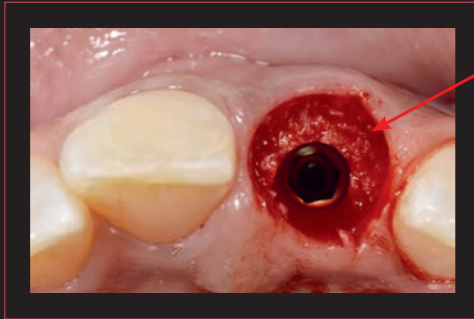
Dual-Zoneとは、文字どおり「2つの領域」という意味である。この領域の境目となるのが、右図の線上の骨縁である。領域の1つが骨縁下、もう1つが骨縁上である。骨縁下に骨移植材料を充填する目的は、抜歯窩内にできたインプラントとのギャップを埋めるためである。

一方、骨縁上に骨移植材料を充填する目的は2つある。1つ目は骨縁下の骨造成を余分に行うこと(①)、2つ目は歯肉の形状を維持すること(②)である。たとえば、抜歯にともなう歯肉退縮およびダウングロスを、骨移植材料によるサポートで防ぐ役割がある。この「Dual-Zone」という概念は、本書においてたいへん重要なコンセプトとなっている。

骨縁下
(Subcrestal)

骨縁上
(Supercrestal)

骨縁上と骨縁下をあわせて
Dual-Zone



抜歯窩の分類

抜歯窩には3つのタイプがあり、いずれも中顔面後退のリスクが予想される。Type 1の抜歯窩は、骨と軟組織がすべて存在するため、臨床的にもっとも理想的な状態である。Type 2の抜歯窩は、中顔面後退のリスクを高める唇側歯槽骨の裂開をともなうため、理想的とはいえない。Type 3の抜歯窩は、すでに中顔面後退欠損を呈し、硬組織と軟組織の両方が失われていることを示す。抜歯窩Type 1は、他のタイプに比べ、治療が予想しやすい。しかし、適切な条件下でこれらのタイプを治療するには、特別な治療プロトコールと適応症が必要である。抜歯窩Type 2は、軟組織が存在し、抜歯前のType 1と同じように見えるが、この軟組織は歯根によって支えられているだけであり、その下にある骨は存在しないため、臨床的には見誤る。頬側骨の一部が欠損している場合、抜歯してインプラントを埋入すると、歯肉退縮のリスクがある。多くの臨床医は、ここでトラブルに見舞われる。



抜歯窩
TYPE 1

抜歯前に唇側骨板と周囲軟組織が損傷のないことを示している。



抜歯窩
TYPE 2

抜歯前、軟組織には損傷がないが、唇側骨には歯槽骨裂開がある。



抜歯窩
TYPE 3

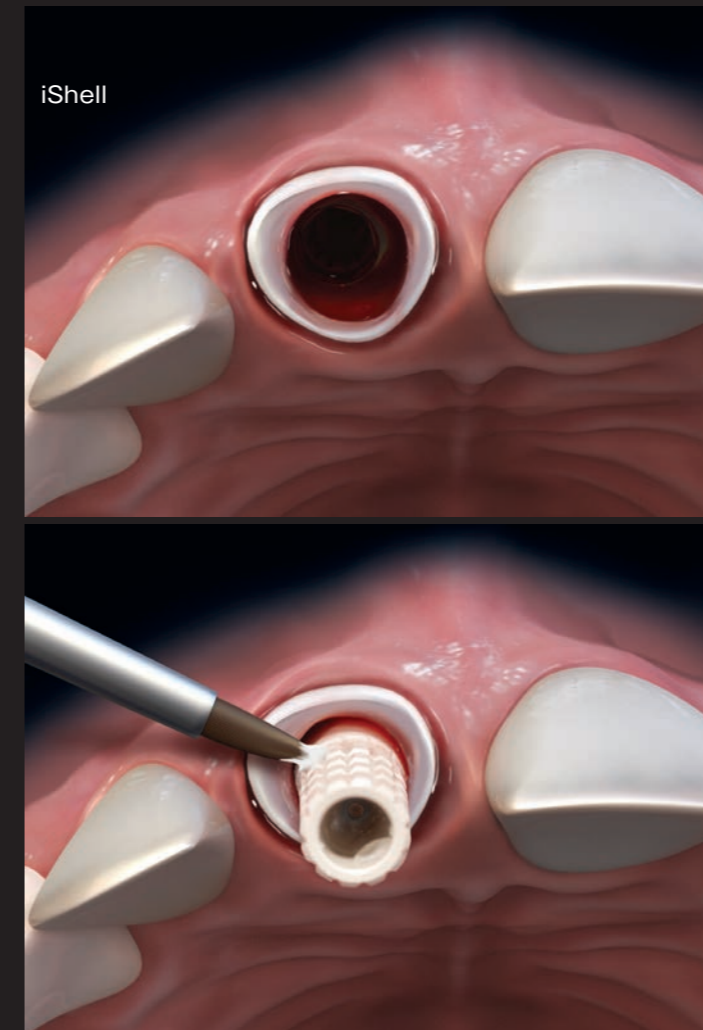
抜歯前に硬組織と軟組織の両方が欠損し中顔面の退縮が存在する。

iShell テクニック

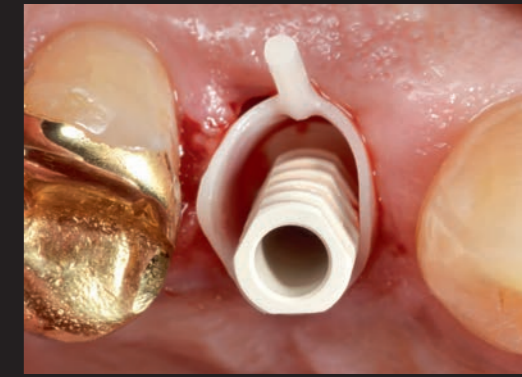
保存不可能な歯をインプラント補綴に置き換える際、軟組織と骨のカントウアを自然に維持するには、抜歯前の歯の歯頸部と歯根形態を再現することが重要である。しかしながら、抜歯直後に軟組織形態が崩れるため、元の形態を維持する方法はないだろうか？ このような問題を解決するために本書の筆者らは企業連携により、この重要な領域の歯頸部形態を再現することができる既製の歯肉形成器またはスリーブ (iShell) を開発した。

このシェルは、即時プロビジョナルレストレーションのみに適応される。シェルは、唇頬側から見てセメント-エナメル境より1.0mm高く、3.0mm下に広がるように設計されており、厚さは0.3~0.5mmである。これらの既製シェルは、歯種に合わせてCAD/CAMシステムのミリング加工によって削り出すことができる。インプラントの埋入位置に関係なく、iShellは軟組織形態を再現することができる。また、印象採得が容易である。iShellは既製品であるため、プロビジョナルレストレーションに使用している部品と同じサイズとロット番号のシェルを使用して、インプラントレベルの印象採得に使用することができる。軟組織形態が崩れていても、シェルを使用することで抜歯前の形態へ戻すことができる。さらに、同じシェルを使用することで、セメント固定式補綴装置のカスタムアバットメントをワックスアップすることができる。

したがって、iShellテクニックは、プロビジョナルレストレーションから印象採得、そして最終アバットメントの設計まで、スムーズなワークフローを可能にする。これらのシェルは、審美的要求の高い上顎前歯部に限らず、大白歯部にも適応できる。白歯部もまた食片圧入を防ぐために、軟組織の温存が重要となる。



iShell



↑ iShell装置 (BioHorizons/VulcanCustom Dental) はポリエーテルエーテルケトン (PEEK) 製のテンポラリーシリンダーを貫通して装着され、固定される。

← スリーブ装着時には、iShell保持器具 (PPIS: HuFriedy) を使用する。



↑ iShellをPEEK製テンポラリーシリンダーの周囲に適切に装着後、これら2つをアクリルレジンまたはコンポジットレジンで互いに固定する。血液成分がレジン材料自体に巻き込まれないように、iShellをテンポラリーシリンダーに固定する際には、レジンは少量を数か所につけて固定を行うよう注意する。



↑ しっかり固定されたiShellは、テンポラリーシリンダーとともに撤去し、血液成分を高圧蒸気洗浄などでしっかり洗い落とし、隙間には口腔外でレジンを追加して充填する。